



REPORT

# サッカー試合解説レポート

MATCH

SPOTV サウジアラビアリーグ

アル・ヒラルVSアル・ラーイド

DATE

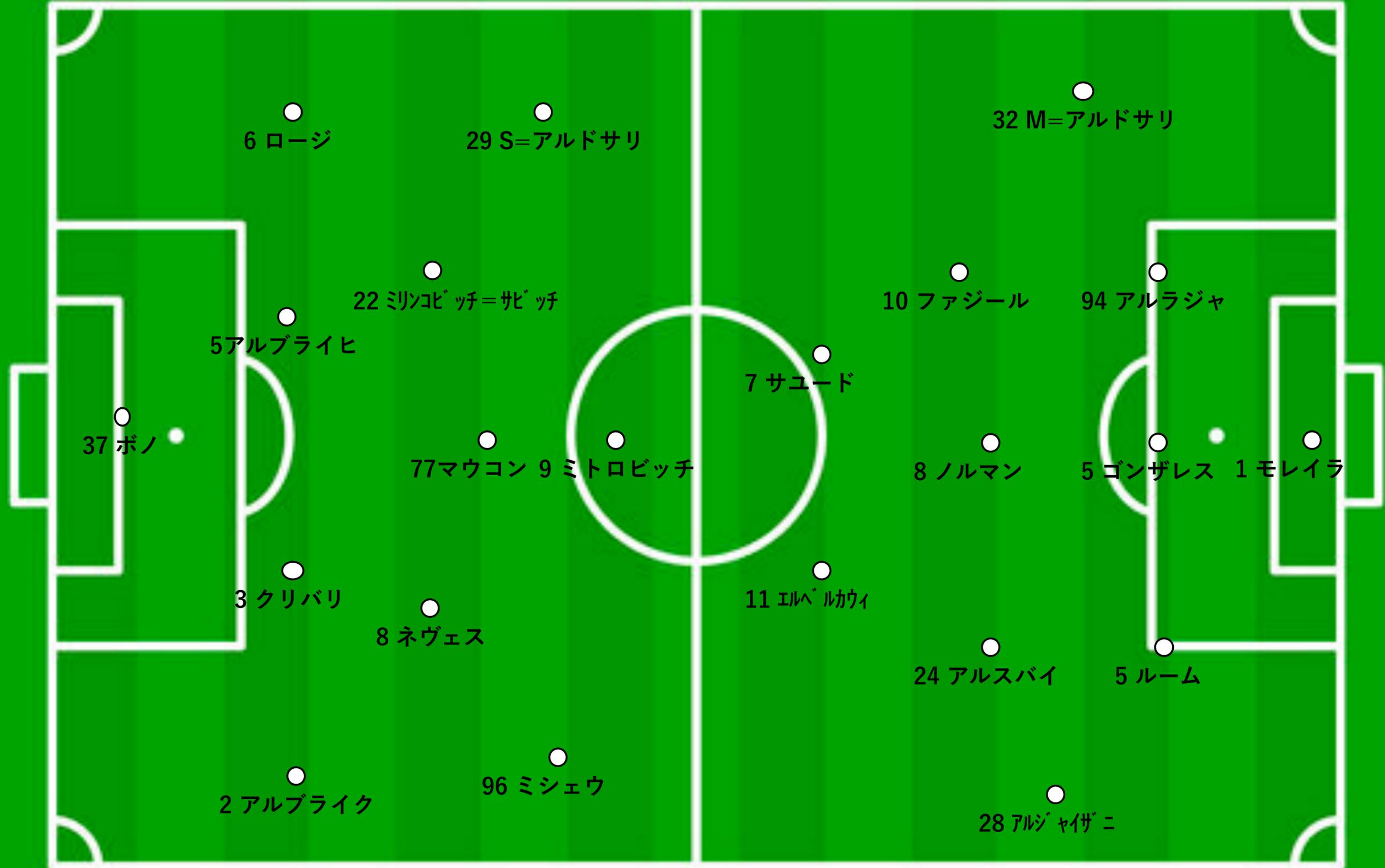
2024/2/18

NAME

田中裕介

アル・ヒラル 4-2-3-1

アル・ラーイド 5-3-2



# MATCH REPORT

SCORE 3-1 (1st 2-0 2nd 1-1)

## TOP3 point

- ・ボールポセッションは72%でアルヒラル
- ・試合を通してアル・ラーイドは守備がハマらず
- ・H=アルドサリの突破、ドリブルテクニックは驚異的！

(アル・ヒラル)

- ・シンプルなパス&ゴールを全ポジションで繰り返し行うことでスピードアップを図る！
- ・失点シーンは選手交代により背後のケアが甘くなり抜け出される。  
試合を通してハイラインで戦うため背後のケアを怠ると失点のリスクがある。
- ・ミトロビッチへボールを当てた後に仲間が信じてレイオフの動き・ランニングを行い厚みを加える。
- ・右サイドバックのアルブライクはハムストリングスを痛めて交代。
- ・ボランチのルベン・ネヴェスはセットプレーからアシストを記録するだけでなく、ネガティブトランジション時の相手ボールホルダーへの寄せの鋭さが素晴らしかった。

## Challenges to the Next

- ・声のトーンを全体的に上げる。明るく！
- ・ハイライトシーンの後のレスポンスを速くする
- ・選手交代時に何が想定されるか次の展開予想をする

(アル・ラーイド)

- ・試合を通して相手サイドバックにアプローチがかけられず自陣に押し込まれる展開。
- ・3CMFの横のスライドで遅れての対応になるため、自陣に侵入された時に相手WG（特に左サイド）へのプレッシャーが緩くピンチを招く。
- ・特に右ストッパーにはいったアルラジャはまだ若く、試合の入りの失点シーンのドリブル対応や右WBのM=アルドサリへの縦スライドを促せず。
- ・反対に左ストッパーのルームは身体能力を生かした守備でピンチを防ぐ。
- ・相手のサイドチェンジに対してWBが相手SBへの牽制をかけ、それに応じるようにストッパーが縦へスライドする勇気が必要に感じた